

6月号  
(記念祭特別号)

# いっしん

平成28年(2016年)

第377号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653

Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

生神の  
道をたどりて  
天地の  
神の心の  
奥がたずねむ  
甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師神款

加治木教会 布教65年記念大祭

平成28年 5月29日(日)



## 第六十二回 甘木親教会布教記念祭奉祝 バレーボール大会

五月四日に開催されました甘木親教会「布教記念祭奉祝バレーボール大会」に「南九州連合チーム」として参加させていただきました。

このバレーボール大会は、甘木親教会で、毎年五月八日に仕えられる「布教記念祭」(今年は布教百十二年記念祭)の奉祝行事として開催されています。

甘木教会はじめ出社・関係教会から例年三十数チームの参加があらわれます。

この大会は、ただ親睦を深めるために開催されるのではなく、甘木親教会にご縁を頂く信奉者が、バレーボールを通して、信心をさせていたたく喜びと命と健康の御礼を現し、お道の発展を祈り、そのお役に立たせていただくこと、互いに成長させていただくことなどの願いがあります。

今年の「南九州連合チーム」は、人

甘木親教会布教記念祭奉祝バレーボール大会…P1~2 感話・永原久子氏…P3~8  
寄稿・星原光太郎氏…P9~11 記念祭前準備御用…P12 行事予定…P14



安武道義親先生  
のご挨拶  
（開会式）

吉教会・宮之城教会・国東教会・蘇陽教会・加治木教会からの参加者で構成されることとなり、昨年はDリーグでしたが、今年はCリーグに上がり、対戦することとなりました。リーグが上がったため、対戦相手も少し手ごわくなつたようですが、最後までケガ過ちなく和やかに対戦させていただきました。



「南九州連合チーム」での参加は今年で三回目となりますが、これまで反省会のようなことがありませんでしたので、安武光太郎先生（人吉教会長）のお父様安武光先生（甘木親教会）のご厚意で、大会終了後、光先生宅前でバーベキューをしながらの反省会を催していただきました。若い参加者たちは、反省とともに来年に向けての取り組みにまで言及しながら、和気あいあいと語り合ひ、帰途につかせていただきました。加治木教会からは、四名参加させていただきました。



甘木教会1区  
長門舟木教会  
夜須教会  
等のチームと対戦



大会終了後、光先生宅前で  
バーベキューをしながらの反省会



今年の王ニスタッカーは  
安武光太郎先生！



上田君のサーブ



芳恵さんのサーブ



ちびっ子応援団



お道の発展を  
祈念して「乾杯！」

# お取次を頂いて

永原久子（加治木教会）

《平成二十八年一月 連合会総会での感話》

加治木教会の永原久子と申します。我が家（実家の庄村家）がご神縁を頂きました詳細ははつきりしませんが、戦前に加治木町でご布教されてありました、平島只助先生（大正十二年四月、甘木教会よりご布教、昭和十九年四月五十五才にてご帰幽）の頃から聞いております。

父や父の兄弟は、その頃からお参りさせていただいていたようです。祖母、庄村ミサは、六人の子ども、男三人女三人を頂いておりましたけれども、長男を病気で亡くし、三男は先日天皇陛下が歴訪されましたフイリピンで戦死したことを聞いております。娘二人も、嫁ぎ先で病気で亡くなっております。

その、亡くなった長男が、亡くなる前に祖母に「金光様だけは忘れないうように」との遺言であったと聞いております。

その祖母が、私が小さい頃、妹と



私を当時向江町にあった教会に連れて行っていただくことをよく覚えていました。（矢野政

美大人は、昭和二十六年六月から昭和三十五年一月まで加治木町向江町で布教、あと朝日町に移転）

忙しい母（庄村ヒデ、加治木駅近くで庄村商店を営む）に代わって、私たちを大変かわいがってくれていました。

祖母は、二人の残った子どもは、父（徳二）と、叔母（ヒデ子）で、その叔母のところに遊びに連れて行ってくださるなど、祖母との楽しい思い出がたくさんあります。

## お取次の頂きはじめ

そのような祖母でしたが、八十才を過ぎた頃から、耳も遠くなっていました。あるとき何回も同じことを尋ねてくるので、親先生（矢野政美大人）にお取次いただいております。

させていただいたことを覚えていませ

そのときのお言葉は「年を取ったら、ほんとうに忘れていくのですから、初めて聞いた時のように教えてあげなさい」と、優しく教えていただき、その当時の私には、驚きと同時に「良いことを教えていただいた」と感激したようなことでした。

その祖母も、九十才の長寿のおかげを蒙らせていただきお国替えさせていただきますました。

私が、お取次を頂き、シッカリお話を聞かせていただくようになりました。したのは、その頃からです。

その当時、私は大阪に就職させていただいておりましたが、それから五年ほどたった頃に、加治木に帰ってきてとても大好きな祖母がいらない現実を実感して、教会にお参りさせていただき心の内を聞いていただいたりしておりました。

そのようなときに、次の就職をこちらで探すことをお話し申し上げておりましたら「教会の行事にお参りできるかどうかを探しなさい」とのお言葉でした。

そんな中に、私の希望とちがう仕事を妹（前田和子氏）と母に言われましたが、自分の希望と違っていたので断っていたのですが、私よりも教会によくお参りさせていたでいた妹が「お取次頂いて決めたら？」と言いますので、さっそくお取次させていただきますと「受けるだけは、受けてみなさい」とのご返事でしたので、受けさせていただきました。

すると、おかげを蒙らせていただき、その会社に入社させていただくことができました。

当初、その会社（NTT）での仕事は、午後五時から十時までの勤務でしたので、親先生が仰って下さったように、お昼は自分の自由な時間がありましたので、教会にも家にも近く、都合よくお繰り合わせいただきましたありがたいことばかりでした。

### み教を聞かせていただくようになり

お話しもその頃から少しずつ聞かせていただくようになり、近隣の教会の御大祭などにもお参りさせてい

ただくことができるようになってきました。

祖母もかねがね遺言で「金光様の信心を」と言っておりましたので、祖母も喜んでくれていることと思い、教会にお参りさせていただくことがありがたいことと思わせていただいております。

そのような中に、近隣の教会の御大祭にお参りさせていただきましたとき、大口教会の先生のお話しでしたが「月例祭はお礼のお祭りです」と聞かせていただいたことが心に大響きまして、月に三度の月例祭もお参りさせていただくようになりました。

そのようにして、少しずつ勉強させていただくことばかりでした。

今でも勉強中ではありますが、加治木教会の男性信奉者の大先輩方に対し、親先生は、たまに厳しいことを仰ることもありました。その方々に対するみ教えや、その方々の受け方を通して、たくさん学ばせていただくことがあり感謝の思いしかありませんが、その中で育てを頂いてきたように思います。

親先生は常々「ほんとうのことを言える信者さんは少ないから、いろいろと言ってあげたいが、すぐ信心をやめてしまうかもしれないから、今言っておかねばと思っても言えないことがあります」というお話を聞かせていただいております。

### 就職・結婚・子育て

NTTの仕事をおかせていただいている中に、結婚のおかけを蒙らせていただきました。

結婚のときも、何度もお見合いをさせていただく中でなかなか決心がつかなかったのですが、親先生の「そろそろ決めさせてくださいなさい」というお言葉で決心させていただきました。

それも、「後で考えて、あれもおかげであった、これもおかげであった」ということがわかるようになる」とみ教え下さったように、お取次の大切さをわからせていただくようなことでした。

NTTの仕事も二十二年余り務めさせていただきました。

最初は、へ自分にはとてもできない

仕事…と覚えていました。お祈りを頂く中に「自分がさせていたできたかった仕事なのかもしれない」と思えるようにまでならさせていたきました。

その仕事も、社会の状況の変化で職場が縮小されていくこととなり、加治木町から鹿児島市内まで通う必要ができてきましたので、そのときもお届けさせていただきました。「辞めて近くで新しい仕事を探しなさい」と仰いましたので、探してみました。

すると、車の免許を持っていません私も自転車で通える焼酎会社（さつま司酒造）の事務就職することができました。

それも、五十才前でしたが、正社員として雇っていただき、その会社も十二年間、定年まで何とかお繰り合わせ頂いて勤めさせていただきました。

今思いますと、前の教会長・政美親先生の大変なお祈りの中で、お取次を頂かせていただいていたことであって、それがなければ今の自分はないと思わせていただいております。

その中で、子どもたちも四人おかげを頂きまして、長女（久美）、次女（真由美）、三女（ひと美）、そして長男（和人）を頂きました。

長男を頂いたとき、妹の長男は一つ上なのですが大病をしまして入院させていただくことになりました。私が育児休職中でしたので妹の長女・次女を預らせていただいたことがありました。



庄村家霊祭  
H27.5.15

三女ひと美さんと  
美央ちゃん  
(H26.6誕生)  
と一緒に霊祭に

そのときに、お取次頂く中で「お願いする、和子さんの方が大変なんですよ」というお話を頂きました。

私は、そのようなことを考えもしませんでした。親先生が教えて下さって、ほんとに「お願いする方は、気を使いながら、どうにもならない状態の中でお願いするのだから…」ということであつた。お取次頂いて病院に行かせていただきました。そうして薬局から塗り薬を頂いてきました。

すると、親先生が「いっぱい付けるのではなく、大変な時だけ薄くいいから付けさせてくださいなさい、膿は体から毒を出させてくださいなさい、できるだけ出させてくださいなさい」と仰せられました。そのようにさせていただきます。

病院に行ったときも、小さい子どもたちが指をさして「きたない」と言うくらいひどい症状で、小学校に入学するまで治らなかつたら、いじめに合うことなどを心配することもありましたが、幼稚園を卒園する頃までにはきれいに治らせていただきました。

その頃のことを知っている友だちの方は、驚かれるほどでした。

長男が六年生の頃に、長男と同じような症状の方でしたが、アトピー性皮膚炎で小さいころからあちこちの病院に通われ、皮膚が白くてまだ痒くて掻いているような状態でしたが、長男はおかげさまで症状は全然なくなっておりへもう少しそのようなことがわかっていたらその人にも教えてあげていたのに、と思うようなことでした。

そのときも「親先生のみ教え通りにさせていたで良かったな」と、つくづく思い知らされました。

### 御神酒とお剣先様で

女の子三人を通していろいろな信心の勉強をさせていただきました。



次女（真由美）は、教祖様百年の年でしたが、幼稚園に上がる前に足の下の方をアイロンで火傷をさせてしまいました。

そのときも、主人や主人の母は「病院に早く連れて行きなさい」と言っていたのですが、お届けさせていただけますと「お剣先様とお神酒様のおかげ頂きなさい」と仰られ、その通りにさせていただきました。

「お剣先様とお神酒様を傷の上から付けさせていたでくと、皮膚ができて良くなった頃には「ロケットと取れるから」と仰り、そのとおりにさせ

ていただいでおかげ蒙らせていただきました。痕は「どこを火傷していたのか」というほどきれいにのおかげ頂かせていただきました。

その次女の子ども（蘭）、私からは孫娘にあたりますが、生まれるときに誕生日が今の章親先生と同じ日におかげを頂いております。

その子が三才くらいの頃から、首の付け根に直径1センチくらいのおきなできものができまして、少しおさまって治ったかなと思っ頃にまた腫れてカチカチになるような繰り返しでした。

それも、お取次頂きながらおかげを蒙らせていただきました。

娘の主人の両親は「早く病院に連れて行きなさい」ということで、病院にも行きましたが「今のところは詳しい検査をしないとよくわからない」ということでした。

その娘もそれから、幼稚園に上がる頃にはおかげ様で良くなるらせていただきました。

しかし、何回も何回も膿を持って出させていただきましたが、ずっとお神酒様とお剣先様だけでしたが、

幼稚園に上がる頃にはいつの間にか  
治まっていました。

そこに小さな穴がありました。が、  
神様がおかけを頂いたことを忘れな  
いように残して下さったと思わせて  
いただいております。

しかし、「それはどうしたの」と尋  
ねられると、子どもなりにそのこ  
とを気にしていたようです。しかし、  
今ではその穴もきれいに塞がってき  
ております。

ほんとに、おかげばかり頂いて、  
子ども四人それぞれいろんなことが  
ありました。

自分の力ではどうにもなりません  
ので、お取次させていただきまして、  
おすがりさせていただきまして、政  
美親先生からみ教えを頂き、お祈り  
下さりおかげ蒙らせていただくよう  
なことばかりでした。

### お取次・お祈りの中で

また、長男が十ヶ月頃、つかまり  
立ちをしているときに、眼を離れた  
隙に後ろに倒れまして、意識が朦朧  
としていました。

「これは少しおかしいく」と思い、



H27.8.

電話で慌てふためいてお取次お願い  
させていただきまして、親先生が「あ  
なたは何を言っているのですか？」  
と、いつもは優しくお話し下さる親  
先生が厳しく仰られ、そのお言葉で  
私もハッと我に返ることができ、改  
めてお取次をさせていただきまし  
た。そのときも、親先生・親奥様にこ  
心配をおかけし、お祈りのおかげで、  
おかけを蒙らせていただきましたこ  
とが忘れられません。

それから救急車で近くの病院に行

き、さらに鹿児島市立病院へ送られ  
まして、一晚様子を診られまして、  
翌日レントゲンの結果、うっ血して  
いる血が自然に消えていくからと説  
明を受け帰宅を許されました。

そのとき病院の先生は「帰ってか  
らも近くの病院で定期的にレントゲ  
ンを撮るように」と紹介状も書いて  
下さいました。

二・三回通院させていただいて、  
そのたびにお参りはさせていただい  
ておりましたが、親先生が「レント  
ゲンは成長期の子どもにはあまり良  
くないので神様からおかげいただき  
なさい」とご理解下さいましたので、  
その後、今日までレントゲンには一  
回も行くことなく、今は三十才にな  
らせていただいておりますが、普通  
の子以上に健康のおかげを蒙らせて  
いただいております。

政美親先生は「お取次のままにさ  
せていただくことが大事ですよ」と  
何回となくお話し下さいました。

お取次を頂くということが、金光  
教でも一番大事なことであると思わ  
せていただいております。

政美親先生は常々「お取次を頂い

て、自分は右と願っていても、左がいいですよと頂いたら、その通りにさせていただと神様が安心の道を教えて下さるのですから」とご理解されてありました。

結婚するときも「信心辛抱」というおかき下げを頂いて、お祝いして下さいました。

その意味合いをお伺いしておけば良かったのですが、その頃の「いっしん」（加治木教会の教会報）に「年の若い間に神様はメグリののお取り払いをして下さるのである、年が寄ってからのお取り払いでは体がもたない、一つでも若い間にメグリののお取り払いをして下さるのであるから、ここが辛抱のしどころであるから、焦ってはいけない」という杉田政次郎師の伝えを載せて下さってありました。

ただ辛抱するだけではなく、お取次を頂きながら信心を頂いての辛抱が大切なことであると思わせていただいています。

## 子どもたちに信心の継承を

子どもたちは、教会での少年少女

会に参加させていただき、御本部の全国大会に参拝させていただき、長男は三才のときからずっと少年少女全国大会に参拝のおかげを蒙らせていただけてきました。

今でも子どもたちにとっては、大切な想い出であり、年間行事ともならせていただいております。



H26年5月、長男和人さん・仁美さん夫婦・佳歩ちゃん（H26年2月誕生）御大祭に参拝 青年会・少年少女会の皆と一緒に

その子どもたちに、今「信心とは」ということを少しずつ考えてお話しさせていただくようになりまして、「**「こ神意」「こ神慮」を少しずつわか**

らせていただき、お礼と喜びの生活にならせていただくことができるように、祈らせていただいております。

子どもたちも、小さいときに頂いたおかげを忘れないように、信心ができ、お礼・お詫びができるようにならせていただき、そして孫たちにも信心の継承ができなければ、神様に相済まないという気持ちで、日々信心の稽古のおかげを蒙らせていただいている今日であります。

甘木親教会の「信徒の集い」という行事に参加させていただいたことがありました。そのときに各班の班別懇談の中で、ある方が「お結界での親先生のお言葉はハイの一言であります」と力強くお話し下さったことが心に強く残り、大事なことを教えて下さったと最近つくづく思わせていただき、十分ではありませんが取り組むことができるよう努めさせていただきます。

また、今年有加治木教会も布教六十五年の記念祭のお年を迎えさせていただきますので、ともどもにおかげを蒙らせていただきたいと思っております。

（おわり）



## 加治木教会で

### お育ていただいた

星原光太郎（豊田教会在籍）

《寄稿》

## 海外出張

実家を離れて早いもので十八年が経ちました。氣付けば、親元で過ごした年月と親元を離れてからの年月がほぼ同じになってしまいました。現在、愛知県で会社員をさせていただいており、だいたい二年に一回は海外出張の機会があります。

今年の二月にはドイツ、ベルギー、トルコへ約一カ月の長期出張をさせていただきました。

昔から外国に行って仕事をするのが夢で、高校生の時は金光教少年少女会で海外派遣に、大学時代には個人旅行にも行っていました。

日本と全く違う文化や食べ物、考え方に興味があり、現地の人と知り合っては「この国の人はこんな考え方なんだ」とか「そんな生活スタイルなんだ」と感心することが多く、違う文化をもっと理解したいと思っています。



星原光太郎さん・吏紗さん  
H28年1月

社会人になると、仕事として出張するので、気楽な海外旅行とは全く違います。相手がスムーズに理解してくれないとイライラしたり、不平や不満を言うことが多くなってきました。

時間にルーズだとか、協調性がない、計画性がないなど、小さい頃から興味があった文化の違いで苦労することが多く、出張期間中に確実に成果を出さないといけないプレッシャーの中で、なかなか楽しんで仕事をすることができませんでした。

そんな中、今年二月の長期出張の

話が来ました。

行き先は、ドイツやベルギー、そしてトルコ。しかし、ご存じのように連日テロの報道があり、ベルギーにはテロ活動の拠点があるとTVで特集をやっていた矢先です。

正直、〈今回は何があるか分からない。断りたい。〉と思い、上司にも相談しました。

上司も「今のタイミングは危ないから、止めておくか」と言ってもらえ、一旦は止めることになりホッとしました。

しかし、日が経つにつれて、どうやら行かなければ仕事が回らないことが分かり、とうとう行くことになったのです。

## テロ活動の拠点の国々へ

教会にお届けをしながら、出張の準備を進めていると、ふと、「金光大神の広前は世界中である。海外に行くのはお広前の中をあちらからそちらへ動くようなものじゃ」という四代金光様のみ教えを思い出しました。

〈そうだった。近くのコンビニに行くのも、海外に行くのも神様のお

守りなしには無事に帰れない。お届けして、お願いしてあげばきっと大丈夫。そう思うと、大変気が軽くなったと同時に、更にどういふ心構えで行かせて頂くのかと考えることにしました。

現在、大変危険な状況になっているトルコやベルギーで一体自分がこのタイミングで出張する意味は何なのか。

一つ思い浮かんだのは、各国を移動しながら、直接現地の方々の助けを祈らせて頂くということなのです。

今まさに困難にさらされている人々の近くで祈らせて頂く。

そのような気づきや心の準備があり、元気に出張させていただいていくことへのお礼と、現地の人々の助けを祈る気持ちを持って出張させていただけたように思います。

## 祈りをもつての海外出張に

結果として、何事も無いスムーズなトルコでの滞在と、ベルギーやド



H27年1月 タイに出張した折に

イツでの仕事の成功、また現地のスタッフとの良好なコミュニケーションを取ることでできました。

今回も、文化の違いによる仕事の仕方や考え方の違いはありましたが、お礼と相手の助けを祈る心を持っていくと、なんとなくスムーズに理解しあえ、相手も私のことを認めてくれるようになりました。もし、信心の心構えもなく飛び立っていたとしたら不安や不満が先に出て、うまく関係が築けなかったのではないかと思います。

私は社会人になるにつれ、海外の人とどうやってうまく仕事ができるのか、どうしたらよいコミュニケーションができるのかという知識やテクニックばかりを考えていたような気がします。

しかし、今回の出張を通して、海外だからこういう方がよいとか、特別なものはないように感じました。

小さい頃から加治木教会で教わってきた「実意で丁寧な生き方、相手の助けを祈る生き方」を実行することが、結局、日本でも海外でも非常に大切な生き方であるということを感じました。

日本、海外に関係なく、教会で教わった良い気持ちや考え方を相手に向けていけば、相手は応えてくれる。そんなことを思わせられた今回の出張でした。



H27年1月 タイに出張した折に

政美親先生が遺して下さいさったみ教え

小さい頃に大事なことを加治木教会で学ばせて頂いていたのだ、と気付かせて頂きました。

当時、加治木のお結界ではいろいろなお話を頂きましたが、今回特に思い出されるのは、大学受験が終わり、福岡に旅立つ前のことです。

お結界で、これからの大学生活のことなどをお届けさせて頂いていると、親先生がふいに「根を忘れなければ、どこに行っても安心じゃ」とおっしゃったのを覚えています。

私は当時意味が分からず、「根とはなんですか?」と質問すると、先生は「根とは、自分が生かされているという本のところ。これを忘れなければ、どこにいても安心じゃ」と言われました。

福岡であろうが、愛知であろうが、海外であろうが、自分の根が何かを忘れなければ、迷わずに安心な生き方ができる、このことだと思えます。自分自身が自分で生きていけると思えば、自分が海外出張をしていると思えば、今回の出張も危うかったと思

います。

地元を離れ、様々なところに住むようになって、本当に大事なことを加治木教会で教えていただいたのだと感じます。

これからもどこに行っても本を忘れず、感謝を忘れず、元気に前向きに取り組んでいきたいと思えます。



星原光太郎さん・吏紗さん H28年2月

少年少女会連合本部年代別キャンプのスタッフとして御用中の星原光太郎さん H22年8月



結婚のおかけを蒙らせていただき加治木教会で式を H26年9月

# 記念祭前の準備御用

五月二十九日（日）に布教六十五年の記念大祭を迎えさせていただく加治木教会では、記念祭前の準備の御用がいろいろと進められました。

「あれもしなければならぬ、これもしなければならぬ」と焦る気持ちにもなりますが、神様・霊様にお喜びいただける御礼の御用になることが大切です。御用始めの御祈念では、御用の心構えについての御教えを頂いて御用が始まります。



炊事場の棚掃除、食器類の箱の確認も進みました

炊事場周辺の大掃除と使える食器などの確認をしました。

教会玄関前に掲げる、記念祭奉迎の看板に取り付けるナイロン製の造花作りが続けられました。



ナイロンの紅白の造花の造り貯めます



記念祭当日の、先生方・親族の皆さんの直会席用座布団の準備ができました。



ふかふかの座布団が準備されました

記念祭奉迎の看板に取り付けるナイロン製の造花作りは、数が多いのでコツコツと作り貯めていきます。パイプいすの錆びている部分の錆び落としをしました。後日錆びどめ入りのペンキを塗る予定です。教会建物外壁のペンキ塗りのお手伝い…。

ペンキ塗りの御用



パイプ椅子の錆び落としに精が出ます、後日ペンキを塗らせていただきました



六月三十日(木)十時半より

# 上半期感謝祭奉仕

※感謝祭お届け用紙(ご記入の上御結界へお届け下さい。)

六月二十六日(日) 午前十時〜午後三時半

鹿児島地方教会連合会

申込締切六月十日

## 女性のつどい

感話：永原久子氏(加治木教会)

場所：加音ホール(会議室)

※昼食は各自持参か、申込み四五〇円。

七月十七日(日)

甘木親教会

## 祈願祭 参拝

出発午前七時半 帰着午後七時頃

## 加治木教会 バンド練習会

練習日 随時連絡します。

今年も練習会に参加のおかけを  
頂き、みんなで布教六十五年記念  
大祭での演奏はじめ、八月の  
少年少女全国大会かがやけ大行進  
までもおかけを蒙らせていただき  
ましよう。

### 教会行事

6月

- 1 (水) ●月例祭(報徳) 10時半
- 3 (金) 親教会記念祭御礼参拝
- 9 (木) 斎掃御用 10時
- 10 (金) ●月例祭(生神金光) 10時半
- 12 (日) 御本部教団独立記念祭(参拝未定)
- 21 (火) 斎掃御用 10時
- 22 (水) ●月例祭：共励会 13時半
- 29 (水) 斎掃御用 10時
- 30 (木) 上半期感謝祭 10時半

《未定行事》青年会・若婦人会

## 第69回 金光教少年少女全国大会

8/6・7・8 ※マイクバスで参拝。  
(土) (日) (月) ※おのり参拝は  
鹿兒島地方教会連合会そろうて  
いっしょに御礼参拝しましょう!

8/8AM9:00鹿児島第一高校第一講堂(鹿児島県)・8/9全国大会(札幌)・8/10おたけ参拝(山口)鹿児島一院(鹿児島)・8/12夕陽講堂(東京)  
※交通費・入会金2000円・年費1000円・小学生1000円以上



練習して「かがやけ大行進」に参加しませんか!

※バンドの練習会場所は、ホーローが「金光教加治木教会」(少年少女会)の行進の練習用棟(テニスコート)です。  
※合同練習を実施する場合は、会場・日時を随時連絡いたします。  
◎参拝・参加を希望される方は、連合会青少年育成課 久野重(加治木教会)までご連絡下さい。  
連絡先 Tel 0992-62-2257 Fax 0992-62-2257 E-mail kankou@kagibiglobe.jp

鹿児島地方教会連合会青少年育成協議会

7月

- 1 (金) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (日) 親教会参拝日 (参拝できるか否かは未定)
- 5 (火) 奉者研修会
- 8 (水) さつま会 連合会婦人教師会 勤労者交流センター 10時半
- 9 (土) 御用奉仕
- 10 (日) ●月例祭 に併せて
- 16 (土) 加治木 祈願祭 11時  
教金 祈願祭
- 17 (日) ●甘木親教会 教師研修会 祈願祭
- 21 (木) 斎掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭(引き)共励会 13時半
- 24 (日) 多良木教会 祈願祭
- 31 (日) 斎掃御用 10時

《未定行事》

## 「熊本地震」復興支援活動 参加者募集

【少年少女会連合本部の災害復興支援団】

第五次派遣：六月五日(日)〜十日(金) への参加

第六次派遣：六月十四日(火)〜十八日(月)

第七次派遣：六月十九日(日)〜二十五日(土)

※御本部からの参加者は期間前後、一日ずつ長くあります。  
※現地本部(宿营地)は、南関教会。  
※詳細は教会にたずねるか、少年少女会連合本部のHPを参照してください。